

滋賀県が創る将来の医療

がん・脳梗塞・認知症を早く見つけ、上手に治す、さらに予防まで健康増進セミナー in 滋賀

滋賀県の先端的な取り組み

滋賀県立成人病センター 総長 笹田昌孝氏



どこの誰もが適切な医療を受けられる仕組みづくり

本日は今後益々大事となる健康をどのようにするのか、それを先進的に進めています。滋賀県の取り組みをお話します。

現代の病気で一番気になるのががんですね。がんは今後も増え続けます。がんが疑われた時、まずは診断が大切です。がんの診断には病理診断が不可欠ですが、病理医が著しく不足しているのです。これを解決する方法を滋賀県が編み出しました。詳細は省きますが、このシステムによってこの病院でも正確かつ迅速な診断が可能となり、次のステップ、治療へと歩を進めること

ができるようになりました。病気がわかったら診断から治療へ、そしてすみやかに元の生活に戻ることが望ましく、この流れをスムーズに運ぶためにはいくつかの工夫が必要で、

・病院に入院したらしっかりと治して早く退院できる
・望ましい医療を進めるために必要な医師のほか、すぐれた薬剤師、看護師、療法士、栄養士などの人材が必要
・これからの医療において個人のため県全体のために医療情報が不可欠
・限られた人材や医療設備の有効活用

など、これらすべてを整えることが必要です。滋賀県立成人病センターは基軸となっていていろいろ新しいシステムづくりを進めているところ

病気を予防し今以上にいきいきと健康に

病気が、なってしまうと正しく早く治すことですが、今や予防する方法がわかってきましたので、これからは



きる限り病気にならず、予防して健康を維持し増進する方向へと進みます。このためには医療提供者のするべきこともありますが、ご自身が日常生活の中で健康づくりを行うことがもっと大切です。私共は大事な健康づくり情報をわかり易く提供しています。

めざすは県民のみなさんからだの健康とこころの健康を併せ持ち、健康的に日々暮らす姿です。子供たちはのびのびと、若者ははつらつと、そしてお年寄りはいきいきと暮らすため、この滋賀県に自然、文化、環境を背景としていろいろな面から整備し、三世代がそれぞれ自立しながら、それぞれを必要として健康的な日々を送れるような街づくり、健康都市構想を進めたいと思っています。

開会のご挨拶

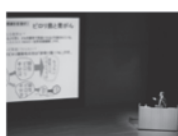


一般財団法人 杉浦地域医療振興財団 理事長 杉浦 昭子

スギ薬局創業35周年を記念し、2年ほど前に「杉浦地域医療振興財団」を設立しました。今年の4月からは全国で健康増進セ

ミナーを開催しています。高齢化社会となり、50年ほど前までは平均寿命が60代だったのが、現在の平均寿命は85歳を超え、90歳になろうとしています。元気で長生きできるのは幸せなことですが、誰もが寝たきりにはなりたくないし、認知症にもならず、自立して元気で長寿を全うしたいと考えていらっしゃると思います。そんな皆さんに、これは少しでも元気で自立して暮らしていただくためのセミナーです。科学もどんどん進歩し、予防もできるようになってきました。本日は、滋賀が創る将来の医療をお聞きください。

学術講演



早く見つける

がん、認知症を画像で

東達也氏



がんの早期発見にはPET（陽電子放射断層撮影）が有効です。砂糖水の薬ががん細胞に溜まる性質を利用し、それを発光させて撮影する検査法です。現在ではPETとCT検査により、千枚中に2枚しか映らない非常に高精度な検査が可能となりました。ただ、PETが万能ではありません。PETやMRIなどと組み合わせると検査するCTが重要です。検査は50歳を境目に受けてください。

司会

滋賀県がん診療連携協議会 企画運営委員会 委員長 鈴木孝世氏

鈴木孝世氏

日本は超高齢社会。高齢になるということは、全ての臓器の能力が減ってくるということ、70歳以上のがん患者はますます増えていくわけですね。医療技術の進歩で現在、がんにかかっても約半数の方がその後を生きられるようになりました。がんと共に歩む時代です。返して言えば、長寿をがんと共に助けあつて生きるといふ精神です。昔から「気は長く、心は丸く、色は丸く、食細うして、命長かれ」と言いますが、この場合は百歳まで生きるといふことではなく、健康寿命を長くするということです。健康を続けるために「共助」と「自律的な検査」を基本にしてください。

上手に治す

体に優しい放射線治療

芥田敬三氏



「放射線治療」は、手術・抗がん剤といった化学療法の中の一つです。放射線を腫瘍の部分だけに照射できることが理想ですが、2000年以降に高精度の三次元画像を作成する放射線の照射法「三次元原形照射」や「定位放射線照射」による「強度変調放射線治療」が可能となり格段の進歩を遂げています。治療を受ける患者さんも現在ではほぼ4割です。肺がんも3方向から腫瘍にのびて放射線をかけ、2ヵ月後にはがん細胞が消滅した患者さんもいます。また正常な臓器に当てるに、前立腺癌に当てられるような「IMRT」などの治療法もあります。このような高度な放射線治療をするには医師の数や技術など規定があるため、県内では4施設のがん拠点病院が実施しています。治療技術も進化しており、現在、より精密に腫瘍の放射線治療ができる画像誘導放射線治療「トモセラピー」の導入を進めています。

予防できる

ワクチンから生活習慣病の予防まで

水田和彦氏



病気の要因は、遺伝的要因、外部環境要因、生活習慣要因があげられますが、予防はできます。はじめに感染症は予防ですが、細菌やウイルスの侵入を防ぐことが大事で予防接種などで対策を。インフルエンザや肺炎球菌はワクチンで予防できます。次にがん予防ですが、要因の半分近くがタバコ・飲酒・細菌感染です。飲酒では食道がん、ピロリ菌は胃がんの要因に、感染症によるものでは肝臓がん、子宮頸がんがあります。半数以上のがんは原因不明なのですが、これらを防ぐには検査を受けて早期発見することが重要です。胃がん、大腸がん、子宮がんも早期であれば完治しますが、進行がんで生存率が1割以下となりますので、ご注意ください。